

昨年7月から隔週で連載してきた「変革の波をこえて」(本紙第1面掲載)では、当面、企業を代表する32氏にご登場頂き、各社の現状と課題、新たな試みの紹介を通して、上下水道事業の将来展望にも言及して頂き、4月末で終了した。

毎回、不況下で苦闘する経営者の心情が痛いほど感じられ、厳しい経済情勢のもと「企業の存続をかけた、活性化に向けての挑戦を続けて行く」という強い意志が伝わり、勇気づけられました。

各氏とも時代が変わったことを率直に受け止め、今後の企業運営の厳しさを認識する一方で「新分野開拓の絵を描くのが経営者の使命」と認識され、真剣に取り組んでいる姿勢に感銘した。まさに「変革の波をこえて」の標題にふさわしく、国・地方自治体・事業体・本紙等への提言

も貴重だった。
具体的には①上下水道の枠内での取り組み②新分野への挑戦③国・地方等への要望ということで、その背景には、言い古されたことだが「量から質への転換」がある。「仕事は減っても無くはない。ただし仕事の内容は変わっていく」という認識である。

これに対応すべく企業としてはプ

「変革の波」を終えて

夢のある上下水道界に

ロボザル(提案)方式をもって臨むこととしているが、そのためには経営ノウハウも含めた技術開発が必要不可欠。しかし一方では「実績のないもの・コストのかかるものは採用し難い」という厚い壁が今なお立ち塞がっている。
実績がなく、何らかのメ

リットが付加されているからこそ新技術・新製品なのだ。「その点を評価され、トータルコストを勘案し、積極的に採用して欲しい。それ以外に活性化への道はない」という声には痛切なものがあり、件数としても圧倒的に多かった。行政は「入札制度の改正を」という訴えに対処すべきである。

技術開発の目標についても「住民ニーズを先取りして、自分たちで考

く、これ迄の上下水道事業の枠を越えた新分野の開拓にもつながってこよう。「当面は、水の流れの中で、新たに、出来ることから取り組んで行きたい」とする産業界のスタンスにも変革をもたすだろう。

今回のインタビュ記事では十分反映されなかったが、各氏が言外に語った悩みは「リーダーの考えを社員全体に伝えることの難かしさ」だった。組織内における危機感の温度差解消の難かしさである。しかし一方では人材確保が強調され、「企業にとつて人材は血液。どんなことがあっても確保していく」と決意されている。そのためにも「夢の描ける、明るい上下水道界の構築」が望まれている。

えていく時代」としながらも、やはり「水と環境・国際化」の時代にふさわしい「国家としての新ビジョン」が必要だとする要望も強かった。これについては国交省・厚労省ともに取り組まれているので期待したい。
国や地方自治体の長期ビジョンは懸案の「施設更新・再構築」へのシナリオとして期待されるばかりでなく、これ迄の上下水道事業の枠を越えた新分野の開拓にもつながってこよう。「当面は、水の流れの中で、新たに、出来ることから取り組んで行きたい」とする産業界のスタンスにも変革をもたすだろう。
今回のインタビュ記事では十分反映されなかったが、各氏が言外に語った悩みは「リーダーの考えを社員全体に伝えることの難かしさ」だった。組織内における危機感の温度差解消の難かしさである。しかし一方では人材確保が強調され、「企業にとつて人材は血液。どんなことがあっても確保していく」と決意されている。そのためにも「夢の描ける、明るい上下水道界の構築」が望まれている。
もう一つの大きな成果は本紙の新聞づくりにも大きな示唆を与えてくれたことだ。その意味からもご登場頂いた方々はじめ読者の皆様方に心から感謝申し上げますとともに、今後とも紙面刷新のためご支援・ご協力をお願いする次第である。